

心理学部附属研究所 通信

第4号

明治学院大学

2010年度プロジェクト研究について

2010年度は8つのプロジェクトが組まれた。1つ目は「心理臨床家の成長と発達のプロセスに関する研究(金沢)」であり、ここでは、心理臨床家の成長と発達についての質的研究と心理臨床家のコンピテンスの定義と測定方法に関する基礎的研究が行われた。

2つ目は「教育臨床領域における心理職の役割及び機能に関する研究(田所)」であり、学校現場における臨床心理士の専門的役割として、単に子どもとその保護者のこころの支援だけでなく、教育にあたっている教師の抱えるストレスやそのケアの必要性を明らかにし、その具体的な対応について示唆を行った。

3つ目は「精神障害者の地域生活における心理的支援の研究(清水)」であり、学生、地域住民、当事者が相互扶助効果のみならず、循環型エンパワメントになっている様態を明らかにし、こうした状況における心理学的支援の具体的実践方法を明らかにした。

4つ目は「高機能広汎性発達障害のコミュニケータ；小学高学年～中学向けプログラムの開発(小林)」というテーマで、心理臨床センターで発達障害者のグループに対して実践を行い、その成果を報告した。

5つ目の「大学生のキャリア発達(小嶋)」では、高校時代の大学卒業後の進路の選択の考え方と、心理学部を志望した動機、大学入試の選抜方法、大学入学の満足感、大学への適応や卒業後の進路選択との関係を、新1年生を対象に明らかにした。

6つ目は「テレビ電話を用いた在日日系ブラジル人の精神障害の診断に関する比較研究(阿部)」であり、外国人診療の一助として、ペルーの精神医学研究所とインターネットをつなげ、実際に顔を見ながら面接を施行し、

診断困難な患者に対する、診断や治療のアドバイスももらい、日本における外国人の治療に役立てた。国籍では、ペルー人7名、コロンビア、ボリビア人が各1名であった。

7つ目は「臨床家を対象としたトレーニンググループの効果と技法(杉山)」であり、これまでのグループ体験による専門家としての成長やグループ体験による臨床家のアイデンティティ形成の促進を基盤にし、心理臨床家を目指す大学院修了生・専門職のトレーニングとして、講義とグループ体験、振り返りからなる一連のトレーニングプログラムの開発を行った。

8つ目の「乳幼児の発達に影響を及ぼす認定こども園の保育カリキュラムと保育に質に関する研究(山崎)」では、中学1年～3年を対象とした調査から、3年間の基本的な生活習慣が学業成績を規定することを明らかにした。こうしたことから、中学校におけるきめ細かな指導は指導法の1つとして、教科の学習にかかわる指導と同時に、中学生活に入る前からの小学校との連携が必要であることを示唆している。

2010年度 研究所特別プロジェクト

心理臨床センターを活用した大学院教育のシステム化

—心理支援・発達支援の専門職養成教育システムの開発—
心理学部教育発達学科

小林潤一郎(代表)

心理学部心理学科 野末武義、岡田和久、中井あづみ

心理学部附属研究所 相談・研究部門(心理臨床センター)

田所撰寿、三縄文香、志村真子、木田麻由子、上原美保

地域社会における大学の役割が多様化する中、大学には学術成果や最新の知見を地域に還元するための接

点をもち、そうした接点を教育・研究に活用するしくみを持つことが求められている。心理臨床センター（以下、センター）は、心の問題や発達に関する相談・支援活動を通じて地域に貢献することを目指しているが、専門職養成のための実習の場ともなっている。センターがこれらの役割を果たすには、地域からの相談に応じるだけでなく、心理学部の専門性を地域に還元する方法を提案する必要がある。また、実習生である学生に専門知識や技術を教授するだけでなく、相談スタッフの一員としての自覚、社会人としての常識的な態度・能力を涵養することが重要となる。

本プロジェクトでは、センターを活用して、心理学部が社会貢献と教育・研究を有機的に実践するためのシステム整備について検討するため、以下の取組を実施した。

1. Clinical Service Learningの導入

学生が、実習の授業とは別に、カウンセラーの行う心理検査や面接への陪席、心理支援・発達支援プログラムへの参加を通じて、カウンセラーの専門性やセンターの役割を体験的に学ぶClinical Service Learningのしくみを導入した。心理学研究科の大学院生40名のうち11名が参加し、参加者の多くが、臨床実践を学ぶことへの意欲やセンター業務への関心が高まり、自分の進路や専門性について考えることができたと評価した。

2. 大学院生を対象にしたキャリア発達支援講座の実施

心理学研究科の大学院生を対象に、本学を修了した臨床心理士（児童精神科クリニック勤務）、臨床発達心理士（療育センター勤務）を講師に迎え、大学院修了後のキャリア形成について2回の講座を実施した。参加者は第1回32名、第2回22名で、講座を通じて、自らのキャリアについて考えるようになったと評価したものが多かった。

3. 明治学院こころの健康アカデミー

心理学部の専門性を活かした地域貢献の方法となることを期待して、以下の心理支援・発達支援のプログラムを実施した。

1) メンタルヘルスプロジェクト

うつ病に関する一般向け講演会を開催するとともに、うつ病で休職中の人を対象にした復職支援アカデミー（集団認知行動療法、ストレスマネジメントなどの復職支援プログラム）を開始した。全8回からなるプログラムを2期実施した。

2) 海外帰国者支援プロジェクト

海外帰国者の帰国後の再適応困難に関する啓発と支援のためのコミュニティ作りを目指して、4回の講座を実施した。

3) 発達障害の子どものためのフレンドシッププログラム

広汎性発達障害などの小学生～高校生を対象に、所属感を持って参加できる活動の場を提供することを目的に、グループプログラムを実施した。小学生向け3グループ、中学・高校生向け1グループ、女子中高生向け1グループを編成し、全9回～11回実施した。

若者とコミュニケーション：変貌と将来

1. プロジェクトの趣旨

教育場面、職場、対人関係場面、カウンセリング場面、など様々な場面でコミュニケーションスキルが求められる時代となった。しかしその一方で、メールやブログ、Twitterなどの簡便で顔の見えないコミュニケーションが若者を中心に社会に広がり、コミュニケーションスキルの衰退が危惧されている。そこで本プロジェクトでは「若者とコミュニケーション」を大テーマとして取り上げ、その変貌の様子と、将来の対策を心理・教育学的な視点から組織的・有機的に研究する。各小部会の研究テーマは以下のとおりである。

メディアコミュニケーション研究部会（代表 宮本聡介）

携帯電話の若年利用者の増加と関連するように、携帯電話使用とのかかわりで生じる友人関係トラブルも増加している。携帯メールは、24時間相手とのコミュニケーションを可能にすることから、使用初期はその娯楽性ゆえ没入してゆくが、友人との葛藤が生じる場面では、メールコミュニケーションが本人たちにとって大変大きなストレスとなることもある。そのストレスの背景には、携帯メールゆえに求められるコミュニケーションルールがあるのではないかと考える。本研究では、中高生に広がる携帯メールに独特のコミュニケーションルールの特徴を明らかにするとともに、その心理的影響に焦点を当て、原因の解明および対策提言のための基礎的調査を行う。

世代間コミュニケーション研究部会（代表 野村信威）

ピリンのガイドド・オートバイオグラフィ（Guided

autobiography) は、グループ形式でライフレビュー（これまでの人生を全体として振り返りその意義を検討する試み）に取り組むひとつの方法として有名であり、心理的な効果が指摘されるものの実証的データはほとんど報告されていない。青年期以降の一般成人8-10名程度のグループを設定し、毎週90分程度のセッションを10回程度行う。人生の分岐点、家族の歴史、ライフワークなど人生の特定のテーマについて話しあう。本研究では、大学生以降の成人にガイドド・オートバイオグラフィへの参加をもとめ、その発言内容についての質的分析を通して、心理的効果との関連を検討することを目的とする。

コミュニケーション能力の評価方法に関する研究部会

(代表 緒方明子)

大人とは意思疎通が可能であるが、同級生との間ではコミュニケーションがうまくとれずに学級の中で居場所をみつけることができず、不登校になったり、様々なトラブルを起こしたりする生徒への対応について、小・中学校では大きな問題となっている。このような問題を解決するための第一段階として、同級生とのコミュニケーションがうまくとれないことの原因を探ることを目的とする。言語能力検査や語彙発達検査等では十分に把握できないコミュニケーションの困難さをもたらす原因を、プラグマティックスの側面からアプローチして探る。さらに、その結果に基づき、支援に結びつく評価の方法を考えていきたい。同年齢の者同士のコミュニケーションを促進する方法を検討することにより、学級で居場所をみつけることができない子どもたちへの支援の在り方を考察する。

大学の授業におけるコミュニケーションの活性化に向けたIT機器活用の研究部会

(代表 水戸博道)

近年、大学の授業においても教師と学生、または学生同士のコミュニケーションを尊重した授業の方法が求められている。このために、携帯電話やIT機器の助けをかりた大学の授業の運営方法に関する研究が、さまざまな研究機関から提案されている。たとえば、授業中の質問を携帯電話のメールによって教師に投げかける授業などは、その方法に賛否両論があるものの、授業が教師から学生への一方通行になりがちな大講義の授業において一定の効果を持つことが報告されている。本プロジェクトでは、大学の授業におけるコミュニケーションの活性化をめざしたIT機器の活用方法について研究する。

スタッフルームから……

岡田和久 (心理学部准教授)

専門：臨床心理学 (ブリーフセラピー)



2010年4月に着任いたしました岡田と申します。学部・大学院の授業とともに、心理臨床センターでの相談業務を担当しております。心理療法・カウンセリングには深い悩みを抱えたユーザーばかりではなく、最近ではむしろ、少し悩んでいることに対してどのように対応すればよいかといった具体的なアドバイスを求めていらっしゃるユーザーの方が多く見受けられます。また、10月より、近年増加しているうつ病等で休職されている方をサポートする「復職支援アカデミー」を開催させていただいております。このように、時代とともに変化していくユーザーのニーズに合わせた支援ができる心理臨床センターになるよう、微力ながら努力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

志村真子 (心理臨床センター 専任カウンセラー)

専門：臨床発達心理学



【発達障害児に魅せられて】

私の専門領域は、自閉症スペクトラム障害(以下、ASD)に関わる相談です。社会性の障害であるASDのお子さんは、対人面での困難さを持っているため、学校などでの集団生活の中では生活しづらさが目立ってしまいます。しかし、特徴をつかんで関われば、落ち着いて話をするのは難しいことではなく、ゆっくりと話をしてみると好きなことに対してとても豊富な知識をもっており、彼らから教えてもらうことはたくさんあります。

また、保護者の方との面談では、初めは戸惑い悩んでいるお母さんも、回を重ねるごとにお子さんの障害を理解されお子さんの専門家になっていかれます。それに対してお子さんが応えてくれたときは一緒に喜びを分かち合うことができ、そのこともやはり発達障害の魅力なのではないかと思えます。

◎第9回カウンセリングセミナーの報告

第9回カウンセリングセミナーは、2010年8月23日(月)に開催されました。このセミナーは、従来2日間にわたって開催されてきましたが、今年は1日のみの開催となりました。今回は、「通常の学級での特別支援を考える(教科指導への支援を中心に)」をテーマにプログラムを組み立てました。

第一番目のセッションでは、小池敏英先生(東京学芸大学)に、教科学習への支援を中心に、通常学級での特別支援教育についてお話をいただきました。第二番目のセッションでは、伊藤亜矢子先生(お茶の水女子大)に、特別な支援の必要な子どものいる学級の学級経営についてお話をいただきました。第三番目のセッションは、3グループに分かれての、受講者参加型の事例検討会という形にいたしました。これは、3名の先生方(上田恭子先生:港区個別支援教室、秋元有子先生:白百合女子大学、大沢紅果先生:明治学院大学)にアセスメントデータを用意していただき、それに基づいた事例の理解と支援計画の作成を、討議形式で進めるというものでした。

小池先生、伊藤先生のセッションは、お二人ともエネルギーに満ち溢れた、密度の濃い内容豊富なご講演で、90分の時間が瞬く間に過ぎてしまいました。分科会形式の第三セッションは、小人数に分かれて実施された上に、お一人お一人の先生のご経験や人柄とも相まって、和やかな中にも有意義なひと時を過ごせたように思います。教育現場で普段、先生方が感じていらっしゃる疑問や発想を直接表明できるこうしたセッションは良かったというご意見がたくさん寄せられました。

◎2010年度プロジェクト研究紹介

- 特別プロジェクト:心理臨床センターを活用した大学院教育のシステム化-心理支援の専門職養成教育システムの開発- (代表:小林潤一郎)
- 特別プロジェクト:若者とコミュニケーション:変貌と将来 (代表:宮本聡介)
- 心理臨床家の成長と発達のプロセスに関する研究 (代表:金沢吉展)
- 教育臨床領域における心理職の役割および機能に関する研究 (代表:田所撰寿)
- 精神障害者の地域生活における心理支援に関する研究 (代表:清水良三)

- 高機能広汎性発達障害のコミュニティケア:小学高学年~中学生向けプログラムの開発(代表:小林潤一郎)
- 大学生のキャリア発達 (代表:小嶋明子)
- テレビ電話を用いた在日日系ブラジル人の精神障害の診断に関する比較研究 (代表:阿部裕)
- 臨床家を対象としたトレーニンググループの効果と技法 (代表:杉山恵理子)
- 心理学部プロジェクト:乳幼児の発達に影響を及ぼす認定子ども園の保育カリキュラムと保育の質に関する研究 (代表:山崎晃)

ホームページのご紹介

心理臨床センターでは、相談業務のほかに、心理支援・発達支援プログラムの内容をホームページに掲載しています。また、プログラムの新着情報やセンターからのお知らせを随時アップしています。ぜひご覧ください。

ホームページアドレス <http://mgu-ps.jp/clinic>



心理学部附属研究所 通信 [2010年 12月 第4号]

編集・発行 明治学院大学心理学部附属研究所
所長 井上孝代
〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37
TEL: 03-5421-5445
E-mail: cccsnr@psy.meijigakuin.ac.jp